

「北方海域技術研究会 平成 25 年度 技術研究発表会」を開催しました

独立行政法人 寒地土木研究所 水産土木チーム、寒冷沿岸域チーム

2013年12月20日に寒地土木研究所講堂において、「北方海域技術研究会 平成25年度 技術研究発表会」（主催：日本技術士会北海道本部北方海域技術研究会、寒地土木研究所）を開催しました。本研究発表会は、港湾・水産関係技術者の技術力向上をめざして、毎年開催しており、技術者同士の交流の場としても貴重な機会となっています。日本技術士会北海道本部と寒地土木研究所は2011年11月に「連携・協力協定」を締結しており、連携行事の一環でもあります。

寒地土木研究所水産土木チームの三上上席研究員は「漁港施設（防波堤・岸壁）における地震・津波対策について」と題して、漁業地域の防災・減災対策について講演しました。また、寒冷沿岸域チームの関口総括主任研究員と上久保研究員は「沿岸道路への越波に関する研究」と題し、オホーツク海の流水期の波浪推算や波の遡上に関する予測結果、越波対策である防波フェンスの設計上の留意点について講演を行いました。

特別講演として、笹島上席研究員は「HOP（北海道国際輸送プラットフォーム）の取組～公共事業としての新たな挑戦」と題し、新たな道産品輸出体制の試みについて講演されました。

北海道立総合研究機構 水産研究本部中央水産試験場の栗林研究主任が「藻場再生と栄養塩」と題して、古コンブ標本の分析により約100年前から現在までの日本海沿岸の栄養塩環境について講演されました。また、北日本港湾コンサルタント㈱の大塚企画部長は「北極海航路の話題提供」と題して、北極海航路利用のた

めの海水予測や航行支援システムの構築に関する最近の研究について講演されました。

各講演とも興味深い内容であり、会場では活発な質疑が交わされ、この発表会への関心の高さが感じられました。今回の研究発表会には北海道開発局、寒地土木研究所、民間企業等から約40名の参加がありました。主催者の一員として、ここに記して謝意を表する次第です。



写真－ 2. 笹島上席研究員の講演



写真－ 3. 栗林研究主任の講演



写真－ 1. 会場の様子